

10分で学ぶ古文シリーズ

古典文法速習 《助動詞》

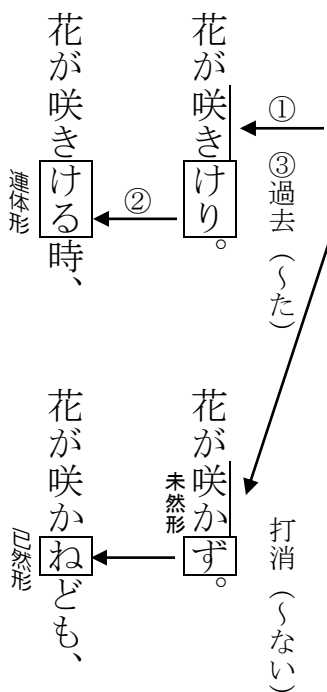
(練習問題つき)

○助動詞とは



↑説明ページ

例 花が咲く



助動詞とは

- ① 原則動詞の下に付き、その動詞の活用形を変える。
- ② それ自身活用する。
- ③ 過去や打消などの意味を付け加える。

覚えるべきことは
以下の3点!!

- ① (上との) 接続 (例 未然形)
- ② 活用表
- ③ 意味 (例 過去)

① 「ず」



- ・接続Ⅱ 「 」
- ・活用表

・意味Ⅱ 「 」 (——ない)

例 夏果てて、秋の来るにはあらず。

ぎ ら	ず	未
ぎ り	ず	用
○	ず	止
ぎ る	ぬ	体
ぎ れ	ね	已
ぎ れ	○	命

【練習問題】

問 各文中の助動詞「ず」を抜き出して、その活用形を書きなさい。

- (1) 人目も、今はつつみ給はず、泣き給ふ。
- (2) 風波やまねば、なほ同じところにある。
- (3) 京には見えぬ鳥なれば、みな人知らず。
- (4) 鳥は林を願ふ。鳥にあらざれば、その心を知らず。

① 「る」「らる」



・接続＝「る」

「る」(四段・ナ変・ラ変の未然形)

「らる」(その他の動詞の未然形)

・活用表

る	
れ	未
れ	用
る	止
るる	体
るれ	已
れよ	命

らる	
られ	未
られ	用
らる	止
らるる	体
らるれ	已
られよ	命

・意味

1 ー (さ)れる

例 ありがたきもの、舅にほめらるる媚。

2 ー (お)ーになる／ーなさる()

例 上人、馬をひき返して逃げられけり。

3 ー (自然と)ーする()

例 人知れずち泣かれぬ。

4 ー ()ーできる()

例 変はりゆくありさま目もあてられず。

(現代語では)

友達に笑われる。

先生が話される。

子供のことが案じられる。

忙しくて行かれない。

意味を識別する目安

1. 「受身」…「**に**」が「**に**」——される
例 ありがたきもの、**舅に**ほめらるる婿。

2. 「尊敬」の可能性は最後に考える。

3. 「自発」…「」・「」・「」・「」・「」・「」
例 人知れずうち**泣か**ねぬ。

4. 「可能」…「下」
例 変はりゆへありさなま目もあてられ**ず**。

2. 「尊敬」は、前述のものではない。

i. 主語が「」であることが多い。例 上人、馬をひき返して逃げられけり。

ii. **尊敬の動詞**とも「使用される」ことが多い。
例 **後に尊敬語をともなわぬ**。



例 今加入たる家司「」おほせ「」。
例 (給ふ・おはす等)

【練習問題】

問 一次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させていれなさい。(例 人に思は(れ)(むほど…「る

- (1) 狐に食は()。 [る]
- (2) 涙もとどめ()。 [ず]
- (3) 心劣りせ()。 [る]
- (4) あまたたび遣らは()。 [ぬ]
- (5) つゆまどろま()。 [ず]
- (6) 涼しからむ所求め()。 [ぬ]

問二 傍線部の助動詞「る」「らる」の文法的意味を答えなさい。

- (1) ありがたきもの、舅にほめらるる婿。
 (2) 今加へたる家司に、おほせらる。
 (3) 人知れずうち泣かれぬ。
 (4) 抜かんとするに、おほかた抜かれず。
 (5) 家居にこそ、ことざまは、推し量らるれ。
 (6) 恐ろしく覚えければ、我にもあらでつい居られぬ。

② 「す」「さす」「しむ」



・接続Ⅱ「 」

「す」(四段・ナ変・ラ変の未然形) 「さす」(その他の動詞の未然形)

「しむ」(すべての動詞の未然形 ※主に漢文訓読文や和漢混交文に用いられる)

・活用表

させ	せ	未
させ	せ	用
さす	す	止
さする	する	体
さすれ	すれ	已
させよ	せよ	命

しめ	未
しめ	用
しむ	止
しむる	体
しむれ	已
しめよ	命

・意味

1 「——せる、——させる」

例 (かぐや姫を) 妻の嫗に預けて養はず。

2 「(お——になる、——なさる)」

例 いみじうおどろかせ給ふ。

「使役」と「尊敬」の見分け方

i. ———— (さ) (せ) + 尊敬語 の形になっている場合「尊敬」になることが多い。

しめ

(給ふ・おはす など)

90% 尊敬

10% 使役(特に上に)「 \odot に」「 \odot を」があれば要注意!

ii. i. の形になっていない場合 ↓ ほぼ100% 「使役」

【練習問題】

問一 次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させて入れなさい。

(例) 降り(させ)て… ↑「さす」

(1) 伝へ() ()ど…。 ↑「さす」 (2) 食は() ()事なし。 ↑「す」

(3) 受け() ()むとて… ↑「さす」 (4) 笑は() ()給ふ。 ↑「す」

(5) 習は() ()む。 ↑「しむ」 (6) 我に得() ()! ↑「しむ」

問二 次の文中の括弧の中に助動詞「す」または「さす」を活用させて入れ、さらにその意味を書きなさい。

- (1) 月の都の人まうで来ば、捕らへ()む。
- (2) いと、こまやかに、ありさまを問は()給ふ。
- (3) 大井の土民におほせて、水車を造ら()られけり。

③ 「き」「けり」



「き」

・接続＝「 」

・活用表

せ	未
○	用
き	止
し	体
しか	已
○	命

・意味＝「 」(「 」た)

体験にもとづく過去

例 鬼のやうなるもの出で来て殺さむとしき。

※カ変・サ変の動詞には、次のように、特殊な接続な仕方をする。

カ変の未然形「来(こ)」

：来し(こし)・来しか(こしか)

カ変の連用形「来(き)」

：来し(きし)・来しか(きしか)

サ変の未然形「せ」

：せし・せしか
サ変の連用形「し」

×来き・しし

「けり」

・接続＝「 」 ・活用表

○	未
○	用
けり	止
ける	体
けれ	已
○	命

・意味

1 「 」 「——た、——たということだ」 **伝聞にもとづく過去**

例 今は昔、竹取の翁といふものありけり。

2 「 」 「——たなあ、——ことだなあ」 例 うつつにも夢にも人にあはぬなりけり

※主に和歌や会話文の中で用いられ、過去に訳せないとぎのみ、この意味になる。

【練習問題】

問一 次の括弧に、助動詞「き」を適当な形に直して入れなさい。

(1) この所に住みはじめ (①) ときは、あからさまと思ひ (②) ども、今すでに五年を経たり。

(2) 死に (③) 子、顔よかり (④) 。

問二 次の文から助動詞「けり」を抜き出し、その意味と活用形を答えなさい。

(1) 死にければ、陣の外に、引き捨てつ。

(2) 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける

(3) 暗けれど、主を知りて、とびつきたりけるとぞ。

④ 「つ」「ぬ」



- ・接続 〓 「 」
- ・活用表

つ	
て	未
て	用
つ	止
つる	体
つれ	已
てよ	命

ぬ	
な	未
に	用
ぬ	止
ぬる	体
ぬれ	已
ね	命

・意味

1 「 」 「 」 ―― てしまう、 ―― た

例 年ごろ思いつること、果たしはべりぬ。

2 「 」 (きつと―、たしかに―)

例 黒き雲にはかに出で来ぬ。

例 龍あらば、ふと射殺して、首の玉は取りてむ。

例 風吹きぬべし。

※後に推量の助動詞(むべし等)

がつがひつがひが多い。

※「つ」と「ぬ」の違い

「つ」は主に人為的・作為的な動詞(他動詞)に接続する。

「ぬ」は主に自然推量的・無作為的な動詞(自動詞)に接続する。

◎ 公式（以下の場合の傍線部は接続が連用形の時必ず完了（強意）になる）

- ・ てき、てけり、てけむ（完了「つ」の連用形）
- ・ にき、にけり、にけむ（完了「ぬ」の連用形）
- ・ てむ、てまし（強意・完了「つ」の未然形）
- ・ なむ、なまし（強意・完了「ぬ」の未然形）
- ・ つべし（強意・完了「つ」の終止形）
- ・ ぬべし（強意・完了「つ」の終止形）

てむ・てき・てけりの「て」は完了
なむ・にき・にけりの「な」「に」完了
てぼ・なぼ・てぼや・つべし・ぬべし
てまし・なまし みな完了

【練習問題】

問一 次の括弧に、下に示した助動詞を、適当に活用させて入れなさい。

(例) 濡らし（て）む。 ↑「つ」

(1) 取り（ ）けり。 ↑「つ」 (2) のたまひ（ ）ど、 ↑「つ」

(3) いひ（ ）こと。 ↑「つ」 (4) なり（ ）こと。 ↑「ぬ」

(5) 浦を去り（ ）！ ↑「ぬ」 (6) 落ち（ ）べし。 ↑「ぬ」

問二 各文中の、助動詞「つ」「ぬ」を抜き出し、活用形を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) 翁の申さむことは、聞き給ひてむや。 (2) 暮れぬれば、参りぬ。

(3) いみじう、久しうもなりにけるかな。 (4) うぐいすの、鳴きつる枝を、折りてけるかな。

⑤ 「たり」「り」



- ・ 接続 || 「たり」「り」
- ・ 活用表

たり	
たら	未
たり	用
たり	止
たる	体
たれ	已
たれ	命

り

ら	未
り	用
り	止
る	体
れ	已
れ	命

・ 意味

- 1 「 | 」 (|) — てしまう、 — た
- 2 「 | 」 (|) — している

- 例 野より出で来たり。
- 例 その内騒ぎあへり。
- 例 雲の細くたなびきたる。
- 例 物思へる気色なり。

※「たり」は、「てあり」「がつつ
またもの」、「り」は、
「あり」「がつつまたもの」。

【練習問題】

問一 各文中の、括弧の助動詞「たり」「り」を、適当な活用形に改めて書きなさい。

(1) 土の山より、落ち(たり) 水なり。

(2) 道知れ(り) 人もなくて、まどひ行きけり。

- (3) 舟子・かぢとりは、……何とも思へ(り)ず。
 - (4) 目のさめ(たり)むほど、念仏し給へ。
 - (5) 物、食はせ(たり)ど、食はねば……。
 - (6) われ、ものの心知れ(り)しより、四十余り…。
- 問二 各文中の、助動詞「たり」「り」を抜き出し、活用形を書きなさい。
- (1) あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
 - (2) 生けらむほど、武に誇るべからず。
 - (3) 世を知れば、願はず、走らず。
 - (4) 稲荷に詣でたらましかば、かからずやあらまし。

⑥ 「む」「むず」



・接続＝「
」

・活用表

※「むず」「はむず」「のつまつたかたぢであい、盛んに用いられたのは鎌倉時代以降である。

む

(ま)	未
○	用
む	止
む	体
め	已
○	命

むず

○	未
○	用
むず	止
むずる	体
むずれ	已
○	命

・意味

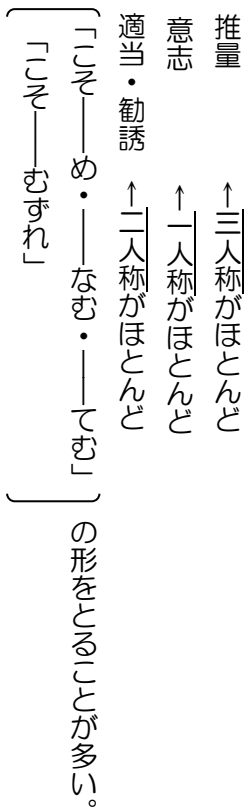
- 1 「——よう、——つもりだ」
例 人より先に聞かむ。
- 2 「——だろう」
例 いかにものあはれもなからん。
- 3 「——のがよい、——ようよ」
例 花を見てこそ帰り給はめ。
- 4 「（もし——ならば）」
例 銭あれども用ひざらむは全く貧者と同じ。
- 5 「——のような」
例 心あらん友もがな。

◎「む」の意味の見分け方

① ———「む」。

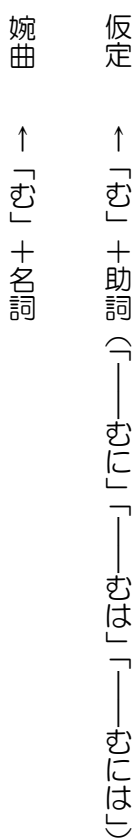
※文末に用いられる時

☆「適当・勧誘」の場合は



② ———「む」

※文中で連体形の時



【練習問題】

問一 各文中の、助動詞「む」「むず」「むず」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) なその犬の、かく久しう鳴くにかあらむ。(2) いづちもいづちも、足の向きたらむ方へ往なむず。

(3) 命ながくとこそ、思ひ念ぜめ。(4) ただいま、客人の来うずるぞ。

(5) わ殿ばらは、重忠がやうなるものにこそ助けられんずれ。

問二 傍線部の助動詞の文法的意味・活用形を書きなさい。

(1) をとこは、この女をこそ得^Aめ、と思ふ。(2) とくこそ、試みさせ給は^Bめ。

(3) いかやうなる心ざしあらむ^C人にか、あは^Dむと思す。(4) ただ、都の外へぞ、出だされ^Eんず。

⑦ 「らむ」「けむ」

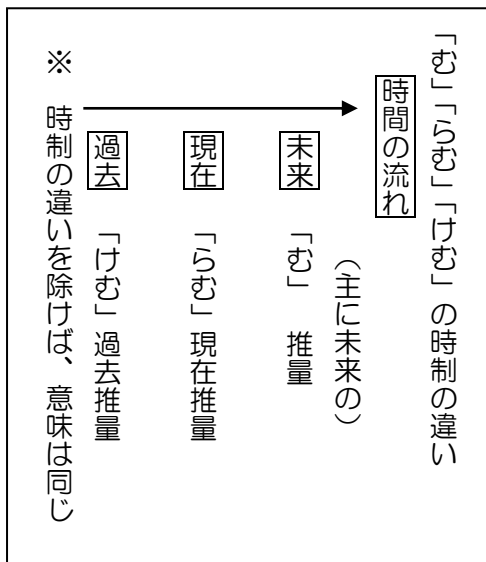


「らむ」

・接続Ⅱ 「」 ※ラ変型は 「」

・活用表

○	未				
○	用				
		らむ	止		
		らむ	体		
		らめ	已		
○	命				



・意味

1 「（今ごろ）——ているだろう」

例 憶良らは今はまからむ、子泣くらむ。

2 「（現在の）原因推量」（どうして——ているのだろう、——ので……ているのだろう）

例 などや苦しき目を見るらむ。

3 「（現在の）婉曲、伝聞」（——ているような、——とか言っている）

例 おぼすらむこと何事ぞ。

「けむ」

・接続Ⅱ 「——」 ・活用表

○	未
○	用
けむ	止
けむ	体
けめ	已
○	命

・意味

1 「（——しただろう） 例 あれは、ただ人にこそありけむ。

2 「（過去の）原因推量」（どうして——したのだろう、——ので……したのだろう）

例 沼田太郎、かなはじとや思ひけむ、

3 「（過去の）婉曲、伝聞」（——したような、——したとかいう） 例 増賀ひじりのいひけむやうに、

⑧ 「べし」



・接続Ⅱ 「 」 ※ラ変型は 「 」

・活用表

未	用	止	体	已	命
べから (べく)	べかり べく	べし	べかる べき	べけれ	○

・意味

1 「——よう、つもりだ」

例 この一矢に定むべし。

2 「——だろう」

例 風吹きぬべし。

3 「——のがよい」

例 濁れる酒を飲むべくあるらし。

4 「——は、——べきだ」

例 いふべき事ありて文をやる。

5 「——せよ」

例 よく見て参るべきよしのたまふ。

6 「——できる」

例 羽なければ、空をも飛ぶべからず。

【練習問題】

問一 次の括弧に、助動詞「べし」を適当に活用させて入れなさい。

- (1) 恋しかる () (夜半の月……)
- (2) 聞く () (けり。)
- (3) 覚えぬよしを啓す () (ど……。)
- (4) この海にも劣らざる () ()。
- (5) 風やむ () (もあらず。)
- (6) 堂塔をも立つ () (ず。)
- (7) 通ふ () (める透垣の戸……。)

問二 次の傍線部助動詞「べし」の意味を答えなさい。

- (1) 恐れの中に恐るべかりけるは、ただ地震なりけり。(2) 高綱、この御馬で宇治川の真先渡し候ふべし。
- (3) 今日は、日暮れぬ。勝負を決すべからず。(4) 家の作りやうは、夏をむねとすべし。
- (5) 風波、とみにやむべくもあらず。

⑨ 「まし」



・接続「
」
・活用表

まし	未	○	用	まし	止	まし	体	まし	已	○	命
----	---	---	---	----	---	----	---	----	---	---	---

・意味

1 「(もし仮に——としたならば……であろうに)《でも現実はず》」

例 稲荷に詣でたらましかば、かからずやあらまし。

※「まし」が反実仮想の意味になるときは、以下の形ででてくることが多い。

— ましかば (ませば)、
— せば、
— (未然形) ば、

…まし 例 鏡に色・形あらましかば、映らざらまし。

2 「(——しようかしら……)《でも無理かな》」

例 これに何をかかまし。

※上に疑問表現(「疑問詞または「や」「か」をともなう。↓すべて連体形

3 「希望」(できれば——したかった…、——すればよかった…)

例 かはづ泣く井出の山吹散りにけり花のさかりにあはましものを※実現しなかったことに対して使う。

4 「(単なる)推量」(——だろう)

※鎌倉時代以降に用いられる。

「なり」

・接続Ⅱ「 」

・活用表

※ラ変型は連体形

○	未
○	用
なり	止
なる	体
なれ	已
○	命

・意味

1 「 」(——とかいう、——そうだ、——と聞く)

例 奥山に猫またといふものありて、人を食ふなる。

2 「 」(——ようだ、——らしい)

例 秋の野に、人まつ虫の声すなり。

※「なり」は「音あり」がつづまった形であることから「 」

「 」とよばれたりもする。

「伝聞」と「推定の意味の見分け方」
 「なり」の上に音を表す言葉があるか
 ○ ↓ 推定 (例 鳴る・打つ・琴)
 × ↓ 伝聞

【練習問題】

問一 各文中の「めり」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) 花やすすき、君がかたにぞなびくめる。 (2) いまいまも、さこそは侍るべかんめれ。

(3) あゆみ来めるは、兵衛佐なめりと思へば、

問二 各文中の「なり」(伝聞推定)を抜き出し、文法的意味・活用形を書きなさい。

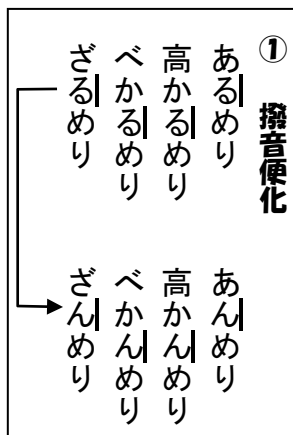
(1) 唐詩に「日望めば都遠し」などいふなる言のさまを聞きて、

(2) この十五日になむ月の都よりかぐや姫を迎へにまつで来なる。

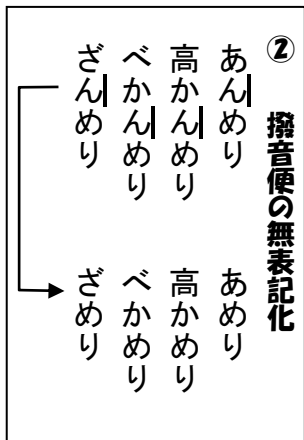
(3) 秋の野に人まつ虫の声すなり。

☆撥音便の無表記☆

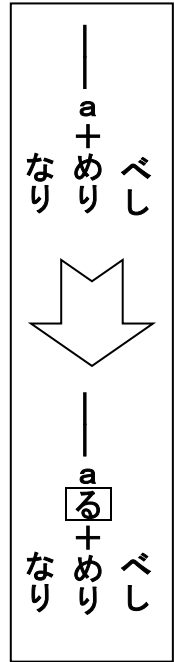
「なり」「めり」「べし」の上にラ変型の連体形が接続するとき、特殊な形で登場することがある。



※発音しやすいように「る」音が「ん」に変われることを「**撥音便化**」するという。よって、下の「あん」「高かん」「べかん」「ざん」は全て連体形になる。



※撥音便の「ん」は表記されない場合が多い（実際には発音する）ので、実際は「あるめり」「高かるめり」「べかるめり」「ざるめり」であると判断できなければならぬ。



例 駿河国にあなる山の頂にもてつくべきよし仰せ

給ふ。
願はしかるべきことこそ多かめれ。

【練習問題】

問一 各文中の、断定の助動詞「なり」を抜き出し、その活用形を書きなさい。

- (1) うつつにも、夢にも人に、あはぬなりけり。
 - (2) 子になり給ふべき人なめり。
 - (3) 人、木石にあらねば、……物に感ずること、なきにあらず。
- 問二 各文中の線部を助動詞「なり」に注意して現代語訳しなさい。

(1) 誰が車ならむ。見知り給へりや。

【訳】 誰の「」。知っておられますか。

(2) 物語するさまこそ、何事にかあらん、尽きすまじけれ。

【訳】 (男女が) おしゃべりをしている様子は、「」。つきることもなさそうだ。

(3) 人々の声あまたして、来る音すなり。

【訳】 人々の声がたくさんして、(みんなの) 来る「」。。

⑪ 「なり」(断定)



・接続＝「なり」
、助詞、副詞

未	なり
用	なりに
止	なり
体	なる
已	なれ
命	なれ

・意味

1 「—である、—だ」

2 「—にある、—にいる」

例 父はなほ人にて、母なむ藤原なりける。

例 天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも

⑫ 「じ」「まじ」



・接続＝「じ」「まじ」
「まじ」 ※ラ変型は連体形

・活用表

未	じ
用	じ
止	じ
体	じ
已	じ
命	じ

まじ

未	まじから
用	まじく まじかり
止	まじ
体	まじき まじかる
已	まじけれ
命	まじ

「なり」の連用形「じ」は

あり

侍り・候ふ

おはす・おはします

(〇〇文字)

の形「なるじ」が多い。

・意味

「じ」(↑打消の「ぢ」)

- 1 「——ないだろう」 例 月ばかりおもしろきものはあらじ。
- 2 「——つもりはない、——たくない」 例 京にはあらじ。
- 3 「不適当」(↑打消の適当・——するのはよくない) 例 かくやあやしき物参るやうはあらじ。
- 「まじ」(↑打消の「べつ」)

- 1 「——ないだろう」 例 秋にはをさをさ劣るまじけれ。
- 2 「——つもりはない、——たくない」 例 ただ今は見るまじとて、
- 3 「不適当」(↑打消の適当・——ないほうがよい) 例 妻こそ、男の持つまじきものなれ。
- 4 「——べきでない／はずがない」 例 さる人あるまじければ、
- 5 「禁止」(↑打消の義務・命令・——てはいけない) 例 人に漏らさせ給ふまじ。
- 6 「——」(↑打消の可能・——できそうにない) 例 えとどむまじければ、

【練習問題】

問 各文中の、助動詞「じ」「まじ」を抜き出して、その文法的意味と活用形を書きなさい。

- (1) えとどむまじければ、たださし仰ぎて、泣きをり。
- (2) 今は世にあらじものとや、思ふらむ。
- (3) かかる折にも、あるまじき恥もこそと心遣ひして……。
- (4) 残しおかじと思ふ反古など、破り捨つる中に……。

⑬ その他の助動詞

「たり」(断定)

・接続＝「体言」

・活用表

未	たら
用	たり と
止	たり
体	たる
已	たれ
命	たれ

・意味 「断定」(——だ、——である)

例 忠盛、備前守たりしとき、

「ごとし」

・接続＝「連体形・助詞「の・が」」

・活用表

未	(ごとく)
用	ごとく
止	ごとし
体	ごとき
已	○
命	○

・意味

1 「比況」(——ようだ、——と同じだ)

2 「例示」(——ようだ、——など)

「まほし」

・接続＝「未然形」

・活用表

未	(まほしく)
用	まほしく
止	まほし
体	まほしき
已	まほしけれ
命	○

例 崩るる音は雷のごとく、上がる塵は煙のごとし。
例 「往生要集」ごとき抄物を入れたり。

・意味 「希望」(——たい、——てほしい)

例 少しのことにも先達はあらまほしきことなり。

「たし」

・接続Ⅱ〔連用形〕

・活用表

未	たから (たく)
用	たかり たく
止	たし
体	たかき たかる
已	たけれ
命	○

・意味 〔希望〕(——たい、——てほしい)

例 わが食ひたきとき、夜中にも暁にも食ひて

「らし」

・接続Ⅱ〔終止形〕※ラ変型は連体形

・活用表

・意味

〔推定〕(——らしい、——に違いない)

未	○
用	○
止	らし
体	らし
已	らし
命	○

例 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣ほしたり天の香久山

※「らし」は主に和歌に用いらね、平安時代はすでに古い言葉とされていた。

練習問題 解答

0. 助動詞 「ず」

問一 (1)「ず」連用形 (2)「ね」已然形 (3)「ぬ」連体形・「ず」終止形

(4)「ぞれ」已然形・「ず」終止形

1. 助動詞 「る」「らる」「るる」

問一 (1)「る」(2)「られ」(3)「らるる」

(4)「るれ」(5)「れ」(6)「られよ」

問二 (1)受身 (2)尊敬 (3)自発

(4)可能 (5)自発 (可能)
(6)自発

2. 助動詞 「す」「たす」「しむ」

問一 (1)「たすれ」(2)「する」(3)「させ」

(4)「せ」(5)「しめ」(6)「しめよ」

問二 (1)「させ」使役 (2)「せ」尊敬

(3)「せ」使役

3. 助動詞 「き」「けり」「けり」

問一 ①し ②しか ③し ④き

問二 (1)「けれ」過去・已然形

(2)「ける」詠嘆・連体形

(3)「ける」過去・連体形

4. 助動詞 「つ」「ぬ」

問一 (1)「て」(2)「つれ」(3)「つる」

(4)「ぬる」(5)「ね」(6)「ぬ」

問二 (1)「て」未然形 (2)「ぬれ」已然形・「ぬ」終止形 (3)「に」連用形 (4)「つる」連体形・「て」連用形

5. 助動詞 「たり」「り」

問一 (1)「たる」(2)「る」(3)「ら」

(4)「たら」(5)「たれ」(6)「り」

問二 (1)「たり」終止形 (2)「ら」未然形 (3)「れ」已然形

(4)「たら」未然形

6. 助動詞 「む」「むず」「む」

問一 (1)「む」連体形 (2)「む」連体

形・「むず」終止形 (3)「め」已然形

(4)「うする」連体形 (5)「んずれ」已然形

已然形

問二 A意志・已然形 B適當(勧誘)・已然形 C婉曲・連体形 D意志・終止形 E推量・終止形

7. 助動詞 「らむ」「けむ」

問一 (1)書かむ 書くらむ 書きけむ

(2)見む 見らむ 見けむ

(3)助けむ 助くらむ 助けけむ

(4)往なむ 往ぬらむ 往にけむ

(5)あらむ あるらむ ありけむ

(6)こむ くらむ きけむ

問二 (1)「けん」過去推量(過去の婉曲)・連体形「けめ」過去推量・已然形 (2)「む」意志・終止形「らめ」現在推量・已然形 (3)「らむ」現在推量(現在の婉曲)・連体形

問三 (1)越えているのだろうか

- (2) 思い出しているだろう
- (3) どうしたのだろうか
- (4) 思われたのであろう

8. 助動詞 「べし」

- 問一 (1) べき (2) ばかり (3) べけれ (4) べし (5) べく (6) べから (7) べかる

問二 (1) 当然 (義務) (2) 意志

- (3) 可能 (4) 適当 (当然)
- (5) 推量

9. 助動詞 「まし」

- 問 (1) 宿を借りようかしら
- (2) 笑ってしまつたならば
 - (3) 昼であつたならば
 - (4) こもりましたら

10. 助動詞 「めり」「なり」

- 問一 (1) 「める」連体形 (2) 「めれ」已然形 (3) 「める」連体形 「めり」

終止形

問二 (1) 「なる」伝聞・連体形

- (2) 「なる」伝聞・連体形
- (3) 「なり」推定・終止形

1. 助動詞 「なり」「たり」

- 問一 (1) 「なり」連用形 (2) 「な」連体形 (撥音便の無表記) (3) 『木石に』の「に」連用形 『なきに』の「に」連用形

問二 (1) 車であろうか (2) 何事であ

らうか (3) 音がするようだ

2. 助動詞 「じ」「まじ」

- 問 (1) 「まじけれ」不可能 (打消推量)・已然形 (2) 「じ」打消推量・連体形 (3) 打消当然・連体形 (4) 「じ」打消意志・終止形